



成果指標				
成果指標	対象事業活動団体数			
指標設定の考え方	補助金の目的に合致している団体であるか。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	26	26	26	26
実 績	26	26	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	活動団体により活動内容に大きな差異がある。不明瞭箇所は決算報告時に聞き取り指導している。ほとんどの団体が補助金により活動できており、継続が必要である。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	各団体の活動の活性化に資するため、運営経費を補助しているものであるが、活動内容と決算について聞き取り指導を継続する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	この事業は、社会教育関係団体へ補助金を交付するものであり、一次評価の課題認識はこのことに触れていない。団体活動を活性化するためにこの補助制度が、活用されているのかどうか検証する必要があるのではないのでしょうか。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題